

普及啓発活動実績 (別紙)

平成 20 年 9 月 3 日

青少年等献血ふれあい事業事例

【事例1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : サタデー・テーリング

実施日時(期間) : 平成18年4月1日～9月30日 6ヶ月間 毎週土曜日

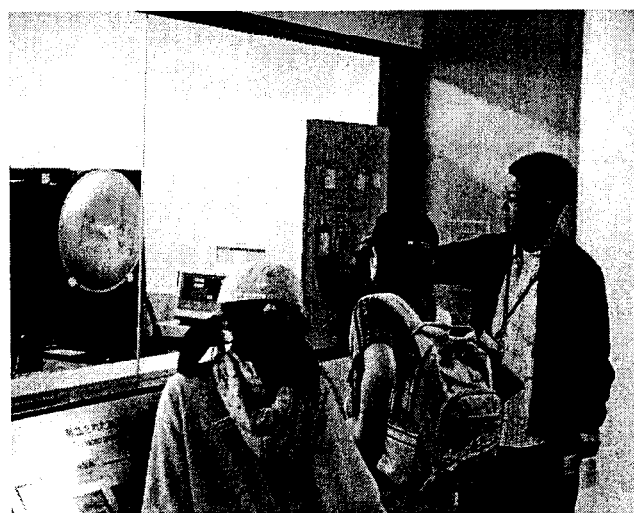
実施場所 : 北海道赤十字血液センター

協力団体 : 札幌市交通事業振興公社
北海道学生献血推進協議会「トマトクラブ」

実施目的 : 少子化に伴い献血者が減少傾向にある中、将来における献血者確保の安定化を図るために、血液センターの見学を通じて、若年者に献血の重要性や関心を持っていただき、さらに参加者及び家族の方に血液センターの場所を知っていただくことを目的として実施している。

実施内容 : 札幌市営交通が毎年4月から9月まで間、毎週土曜日に市内の小学生4～6年生を対象に市公共施設等を巡るスタンプラリーを開催しており、平成17年より血液センターをその対象公共施設に組み込んでいただき、学生ボランティアグループが説明及び案内役として見学全般の対応を行う。

実施結果 : 参加人数合計3,425名、実施日数25日(1日平均140名)
学生ボランティア75名協力



【事例2】

実施センター名 : 宮城県赤十字血液センター

実施名称 : 献血教室

実施日時(期間) : 平成18年7月27日(木)・29日(土) 10:00~11:30

実施場所 : 宮城県赤十字血液センター 3階会議室

協力団体 : なし

実施目的 : 献血年齢に満たない小学生(主に4年~6年生)と保護者が一緒に、献血の必要性や血液の役割を知っていただき、血液センターを身近に感じていただくことを目的とし、夏休みの自由研究等の一助とする。

実施内容 : (1) けんけつちゃんを使用したスライドを中心に「献血〇×クイズ」を出題しながら講話。(「献血ってなあに?」、「輸血ってなあに?」、「血液の成分」等)
(2) 所内見学(検査課、製剤課、供給課)及び献血バス、血液運搬車。
(3) 配布資料(スライドで使用した資料、愛のかたち献血パンフレット、宮城の献血、献血ルームリーフレット、広報紙「献血いずみ」等)
(4) 質問コーナー、アンケート。
(5) 記念品(ベガッ太くん血液型キーホルダー、メモ帳等)

実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実施結果 : 参加者は、7月27日の19組(子供25人)44人と29日の20組(子供26人)46人となり、当センター会議室が両日とも満員となりました。見学終えての感想は好評であった。



【事例3】

実施センター名 : 大阪府赤十字血液センター

実施名称 : 第11回「献血おもしろゼミナール」
～血液センターを見学して、献血や血液のナゾに迫ってみよう～

対象 : 小学生（主に3～6年生）及び保護者（参加費は無料）

実施日時（期間） : 平成18年7月27日（木）・28（金）・31日（月）、8月1日（火）・
3日（木）・4日（金）・7日（月）・8日（火）
○午前の部 10:00～11:30 ○午後の部 14:00～15:30

後援 : 大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

実施目的 : 献血年齢に満たない小学生に対して献血意義の普及と推進を図るため、「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの一環として、夏休みの期間中に小学生を対象に血液センター見学会を開催する。見学会を通し献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めていただき、献血や血液に興味をもっていただくことを目的とするとともに、小学生の夏休みの宿題（自由研究）を応援する。

実施内容 : (1) アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事の概要や、献血や血液に関する説明（別添1の内容をパソコンから液晶プロジェクタを使って映写し説明）
(2) 施設見学（採血室、製剤風景、検査風景、供給課）
(3) 質問の受け付け、感想文を書いてもらう
(4) 記念品（近畿ブロックの血液センターが共同で作製した献血啓発グッズ等）の進呈

実施結果 : 参加者 : 総計 1,896人



（参考：過去の実績）

平成11年度 : 140人
平成12年度 : 265人
平成13年度 : 635人
平成14年度 : 1,094人
平成15年度 : 1,418人
平成16年度 : 1,864人
平成17年度 : 2,055人
平成18年度 : 1,896人

【事例4】

実施センター名 : 岡山県赤十字血液センター

実施名称 : 夏休み「小学生親子血液センター見学体験教室」

実施日時 (期間) : 平成19年8月1日(水)～8月3日(金) 3日間
平成19年8月7日(火)～8月10日(金) 4日間
午前と午後に分けて実施 (全14回)

実施場所 : 岡山県赤十字血液センター (岡山市いづみ町3-36)

協力団体 : 岡山県、岡山県教育委員会

実施目的 : 青少年等献血ふれあい事業の一環として、県下全ての小学校5・6年生を対象に、「小学生親子血液センター見学体験教室」を開催し、親子で献血や血液に関する知識や興味をもつていただくことを目的とする。

実施内容 : (1)血液・献血の話 (講話)
血液の働きや必要性、献血血液の流れ、クイズ
(2)センター施設見学
血液センターの仕事 (受付、採血、検査、製剤、血液保管場所)、献血バスや緊急車の見学

実施評価 : 将来の輸血医療を支えていく小学生に対し、血液の働き・献血の重要性をパワーポイントでの説明、血液センター施設内の見学により献血への理解促進を図れた。

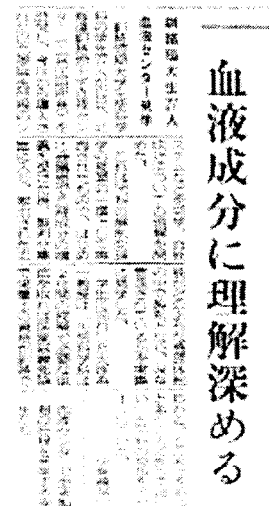
実施結果 : 参加者 : 681人 (内児童 435人) 参加校 : 139校



若年者献血セミナー事業事例

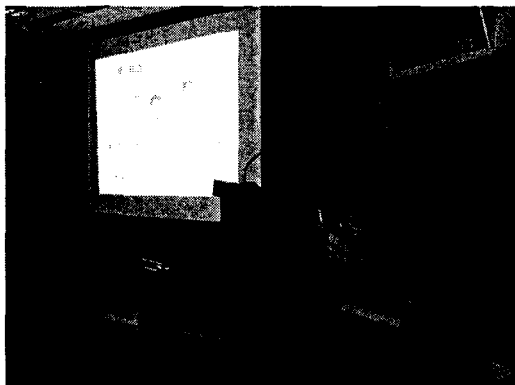
【事例 5】

- 実施センター名 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 実施名称 : 技術部門における「若年者献血セミナー」
- 実施日時(期間) : 平成19年8月夏休みの5日間 9:00~17:30
- 実施場所 : 北海道釧路赤十字血液センター
- 協力団体 : 釧路短期大学、釧路高等専門学校
- 実施目的 : 少子化献血推進対策の一環とし、献血推進部門の主体形を技術部門から更に支持することで、より専門的な技術系学生の献血の理解と協力が深まるものとする。
- 実施内容 : (1) 工学的素養を持つ学生に対し、製造部門でのバリデーションの現地体験を中心に採血・供給部門等の研修を行った。
(2) 解剖生理学実習の1コマとして栄養士課程学生が、製造部門の全工程を見学し、技術職の担当者が血液成分とその機能について講義を行った。
- 実施評価 : 献血の次世代の担い手となる20歳前後の学生実習を技術部門で積極的に受け入れることは、若年層への献血推進活動として新たな視点への期待にも繋がると考える。
- 実施結果 : 参加者:31人 参加校:2校
当セミナー実施後、釧路短大において、献血を実施したところ、前回は大きく上回る協力(約80名)が得られた。また、同短大食物栄養専攻の学生は献血不適となる貧血改善等に向けた食生活の普及に意識が高まるようになった。



【事例6】

- 実施センター名 : 沖縄県赤十字血液センター
- 実施名称 : けんけつキッズ・サマースクール
- 実施日時(期間) : 平成18年6月7日(水)～平成19年2月8日(木)
- 実施場所 : 美東小学校、兼原小学校、伊波中学校、KBC学園
県立八重山商工高等学校他10校
- 協力団体 : 沖縄県、骨髄バンクを支援する会
- 実施目的 : 若年層へ血液・献血についての知識を深めることにより献血思想の普及を図る。また、献血実施校については、献血への参加を促すとともに安全な献血を行うことを目的とする。
- 実施内容 : 骨髄移植経験者による輸血体験談の発表。血液センター職員により血液のしくみ、献血の重要性、献血から供給までの流れ等を説明(パワーポイント使用)
- 実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。
- 実施結果 : 参加者: 総計2,351人



(参考: 過去の実績)
平成16年度約2,100人
平成17年度約1,950人



“命”救うボランティアを
県赤十字血液センター 献血教室を開催

県赤十字血液センター
献血推進の「献血教室」
が6日午後、兼原兼原
林小学校(下地藤雄校長)
の2年生を対象に同校校
舎で実施された。同校校
舎で実施された。

同校校長は「献血教室」
の趣意について、知識を
深め、安全な献血を奨励
するとともに、3年前
から始まった、県内の高
校3年生を対象に年間十
校程度実施している。
この日は、午前11時二
十分から伊波部校長も
参加した。

大森校長は「献血のしくみ
や血液の働きについて説
明。血液の成分である赤
血球、白血球、血小板に
は寿命があるとして、血
内の調整がうまくは
一日百八十八回後の献
血が必要と説明した。
また輸血が必要な場合
については、マダガスカル
に生息するマダガスカル
分枝の天竺豆や血液
の調製、新生児交換輸血
一存を挙げ、「輸血に
よって命の救済をす
ることができ、実際に
人の命を救うのは献血す
る人と受け、献血への
理解と協力を求めた。」
生徒は「献血して命を
救うのが、白血球は
くまなく回って、病
を治すのと同じで、血
を流すことで、病を治
すことができる。献血
は、命を救うことだ」と
感動を述べた。

献血推進の「献血教室」
が6日午後、兼原兼原
林小学校(下地藤雄校長)
の2年生を対象に同校校
舎で実施された。同校校
舎で実施された。

複数回献血協力者確保事業事例

【事例7】

実施センター名 : 東京都赤十字血液センター

実施名称 : 「サンクスドナーAED」(献血携帯メールクラブ会員限定「医学講演、赤十字救急法講習会」)

実施日時(期間) : 平成19年11月4日(日)午後
平成19年11月17日(土)午後
平成20年3月15日(土)午後

実施場所 : 平成19年11月4日(日) 武蔵野赤十字病院山崎記念講堂
平成19年11月17日(土) 日本赤十字社辰巳ビル
平成20年3月15日(土) 日本赤十字社辰巳ビル

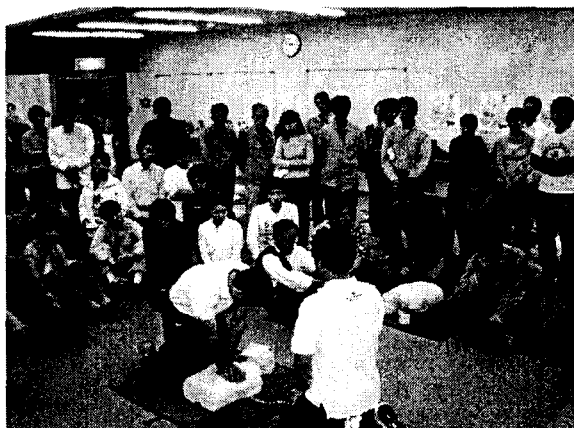
協力団体 : 日本医科大多摩永山病院救命救急センター(講師派遣)

実施目的 : 複数回献血者確保事業の一環として、献血携帯メールクラブ会員向けに、日頃の献血協力に対する感謝の意を込めて実施。会員限定講習会という特別イベントを行い、今後も積極的な複数回献血の協力が得られるようにする。

実施内容 : 救命救急担当医の講演により、輸血の大切さや必要性を理解していただいたうえで、心配蘇生法やAED)「自動体外式除細動器」を使用した講習を実施した。

実施評価 : 3回の開催案内に対し、応募定員の252名の約5倍の申込があった。協力的な献血者の中には、このような講習会参加の希望が高いことが分かった。献血後の血液の使われ方や大切さがよく分かったと好評であった。

実施結果 : 参加者 : 273 人



〈11/4 武蔵野赤十字病院山崎記念講堂〉



〈11/17 日本赤十字社辰巳ビル〉

【事例 8】

- 実施センター名 : 兵庫県赤十字血液センター
- 実施名称 : 兵庫県栄養士会との連携による献血希望者への栄養相談
- 実施日時(期間) : (1)平成19年11月6日(月)～平成20年3月31日(月)
 受付時間 14時～16時30分
 (2)移動献血会場は3月7日、14日、25日の10時～15時
- 実施場所 : (1)ミント神戸15献血ルーム
 (2)移動献血会場3カ所(加古川市役所・上郡町・新宮町)
- 協力団体 : 兵庫県栄養士会・兵庫県・県内市町
- 実施目的 : 兵庫県栄養士会「栄養ケアステーション構想」との連携により、献血者及び比重不足等の献血不適者を対象とした栄養相談を行うことによって、献血者をはじめとする兵庫県民の健康増進に寄与するとともに複数回献血協力者の確保を目的とした。
- 実施内容 : 血液センターが相談場所を準備し、県栄養士会が派遣した管理栄養士による献血来場者との対面式の栄養相談を行った。主に献血不適者を対象に「なるほど!献血」冊子などを活用し、食生活の改善を中心とした栄養相談(指導)とした。周知方法は血液センターホームページや献血ルーム受付での案内にてチラシを配布した。
- 実施評価 : (1)今回は期間が短く、複数回献血につながるかどうかまでの分析はできなかったが、この取り組みを通じて食生活の栄養バランスの大切さを理解してもらうとともに、若年層を中心にまだ献血したことのない方への献血動機づけに繋がるものと思料される。
 (2)県栄養士会との連携によるPR効果は大きく、新聞社2社(朝日・神戸)、NHKラジオ(『ラジオタ刊』)、サンTV(『週刊ひょうご夢情報』)で取り上げられ、冬季血液の確保の一助となった。
- 実施結果 : 総実施回数:21回 参加者:総数 72人
 一人あたりの相談時間は5～30分程度であり、平均は12～13分。

	10代	20代	30代	40代	50以上	不明	計
相談者数計	0	23	16	11	18	4	72
(内男性)	(0)	(4)	(5)	(4)	(7)		(20)